

説教余滴 2019年5月26日、「三本の十字架」

昨日は、教会バザーが開かれました。好天に恵まれ、暑いほどでしたが、多くの方と共に楽しむことができました。田浦教会が地元住民から愛されているのでしょうか。バザーが好まれているのでしょうか。どちらでもよろしいかと思えます。年間何回かの機会、地元の人たちと顔を合わせ、互いを知り、交流することが出来るのです。感謝です。

オリーブの木の花芽が、花となりました。小さな白い花です。木の下に落ちているので気付きました。開花して落ちるまでが早いこと、早いこと、あれでは受粉する間がないだろう、などと考えてしまいます。

その近くでは岩沙参（イワシャジン）が、紫色の小さな釣鐘型の花をつけています。リンドウと似ていますが、だいぶ小さいしスマートな感じです。

夏の間に花芽が成長し、秋になると次々と花が開く、と教えられました。だいぶ早咲きになっています。地域による変異種といえるのでしょうか。来年どうなるか、楽しみです。

名を付けるなら、タウラシャジン、となるようです。

田浦教会の中央にそびえているのは、三本の十字架です。普通の教会では、一本だけです。

ここは三本を選びました。イエスと共に、二人の強盗が、一人は右に、一人は左に架けられました。田浦教会は、自分たちが主イエスと共にあの十字架にかけられた罪人であることを忘れないように、と考えたのでしょうか。教会堂を建築し、奉献しました。たいへんなご苦勞があったことと存じます。大事業を成就されました。これは誇るに足ることです。

でもその時、自分たちは罪人だ、誇るものは何もない、と自戒されたのでしょうか。

イワシャジンのように、下を向いてひっそりと咲くことを選ばれたのでしょうか。

朝ともなると、あの十字架の上に蛾眉鳥がとまって啼いています。主を讚美して。